

# 債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア


















インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/16 (2/9との比較)	2/16 (2/9との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
カナダ 	AAA	2.32% (▲0.03)	84.58円 (▲2.20%)	+3.0% 2017年3Q	1.25%	NAFTA（北米自由貿易協定）再交渉が不透明の中、政府はメルコスール（南米南部共同市場）とFTA（自由貿易協定）交渉の方針を発表。製造業売上高が市場予想を下回り、カナダドルは対円で下落。国債利回りは小幅低下。	CPIや小売売上高の発表を予定。NAFTA再交渉や最近の住宅ローン規制強化など不安定な要素が多い中、カナダドルは米国の政策動向や、原油価格の推移に左右される展開を想定。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 利上げ局面		
ブラジル 	BB-	8.86% (▲0.22)	32.90円 (▲0.19%)	+1.4% 2017年3Q	6.75%	中銀は議事要旨を発表。利下げ打ち止めを言及したものの、インフレ率が下振れを続ければ、利下げするとの可能性を示唆。週次のCPIが市場予想を下回り、リアルは対円で下落。国債利回りは低下。	経済活動などの発表を予定。財政問題や社会保障制度などの改革の遅れや、大統領選などの先行き不透明感が残存する中、中銀の議事要旨で追加利下げの可能性が残されたため、レアルの上値は重い展開を想定。
	Ba2	 金利低下		 景気回復	 据え置き局面		
メキシコ 	A-	7.62% (▲0.04)	5.73円 (▲1.39%)	+1.8% 2017年4Q	7.50%	主な経済指標の発表がない中、与党と新興左派野党は大統領候補をそれぞれ正式に指名。世論調査では、新興左派のオブラドール氏が優勢。利上げの影響から経済の減速感が出始め、ペソは対円で下落。国債利回りは低下。	10-12月期GDP（国内総生産）や経常収支の発表、中銀の議事録の公表などを予定。インフレ圧力の大きな鈍化が期待されにくい中、過去の利上げもあり、ペソは底堅い動きを想定。
	A3	 金利上昇		 景気安定	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。
















国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/16 （2/9との比較） 今後の見通し （※4）	2/16 （2/9との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	2.92% （+0.06）	83.96円 （▲1.24%）	+2.8% 2017年3Q	1.50%	中銀総裁は、失業率が低下しインフレ率が2-3%へ上昇するまで、利上げを検討しない考えを表明。雇用統計の結果は概ね市場予想通りとなるも、フルタイム就業者の減少が嫌気され、豪ドルは対円で下落。国債利回りは上昇。	中銀の議事要旨の公表や賃金指数の発表などを予定。賃金指数が良好な結果を示せば、目標インフレ率に近付くことが予想され、豪ドル高になる可能性があるため、注意が必要。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		
ニュージーランド 	AA+	2.98% （+0.03）	78.46円 （▲0.58%）	+2.7% 2017年3Q	1.75%	2年インフレ予想は前回からやや上昇。製造業PMIは大幅に改善し、住宅売上高はマイナスからプラスへ転換。経済指標が改善したことから、国債利回りは小幅上昇。ニュージーランドドルは対円で下落。	小売売上高やクレジットカード支出などの発表を予定。インフレ率が金融政策の先行きに影響しやすい環境であり、20日に発表予定のPPI（生産者物価指数）が大幅上昇した場合は、早期利上げ観測が再燃する可能性。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	1.90% （+0.04）	13.64円 （▲0.71%）	+1.4% 2017年4Q	0.50%	消費者信頼感指数は上昇し、貿易黒字がやや増加するなど経済指標は良好。原油価格が上昇したことも景気に対する見方を改善させる要因となり、国債利回りは上昇。ノルウェークローネは対円で下落。	失業率などの発表を予定。政策金利引き上げのタイミングが具体的に展望されるにはインフレ率の上昇を待つ必要があるものの、景気は着実に拡大。石油産業の設備投資調査が改善した際は景気への見方が一段と強まる見込み。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利上げ局面		

（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

市場概要・見通し（南アフリカ、インドネシア、インド）

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/16 (2/9との比較) 今後の見通し (※4)	2/16 (2/9との比較) 今後の見通し (※5)	前年比 (※3) 景気の方向性 (※6)	先週末 方向性 (※7)		
南アフリカ 	BB+	7.43% (▲0.31)	9.18円 (+0.96%)	+0.8% 2017年3Q	6.75%	小売売上高は市場予想を上回る結果。ズマ大統領が辞任を表明し、新大統領としてラマポーザ氏が就任したことが好感され、ランドは対円で上昇。国債利回りは低下。	CPIなどの発表を予定。インフレ動向次第では今後の利下げも視野に。新大統領の就任を受け、市場の関心は財政難など山積みした課題への対応に移行。また、発表予定の予算にも注目。
	Baa3	 金利横ばい	 金利低下	 景気安定	 利下げ局面		
インドネシア 	BBB-	5.78% (▲0.04)	0.79円 (▲1.71%)	+5.2% 2017年4Q	4.25%	貿易統計は市場予想を下回る結果。中銀は市場予想通り政策金利の据え置きを決定。13日に行われた国債入札では、投資家の需要が強く、国債利回りは低下。ルピアは対円で下落。	主要な経済指標の発表はなし。海外投資家の債券売買フローが流出方向に偏る中、国債利回りは上昇しやすい展開を予想。一方、中銀はルピアの為替相場の安定性を重視する姿勢を維持する中、ルピアは底堅く推移する見込み。
	Baa3	 金利低下	 金利横ばい	 景気拡大	 利下げ局面		
インド 	BBB-	7.47% (+0.02)	1.65円 (▲2.06%)	+6.3% 2017年3Q	6.00%	CPIや鉱工業生産は概ね市場予想通りの結果。原油価格の上昇を受けて、貿易赤字は拡大。世界的な金利上昇局面から、ルピーは対円で下落。国債利回りは小幅上昇。	主な経済指標の発表はなし。海外からの影響を受けやすく、また、財政赤字拡大懸念があるも、良好な国内経済を受けて、債券・為替市場は底堅い展開を想定。
	Baa2	 金利横ばい	 金利横ばい	 景気回復	 据え置き局面		

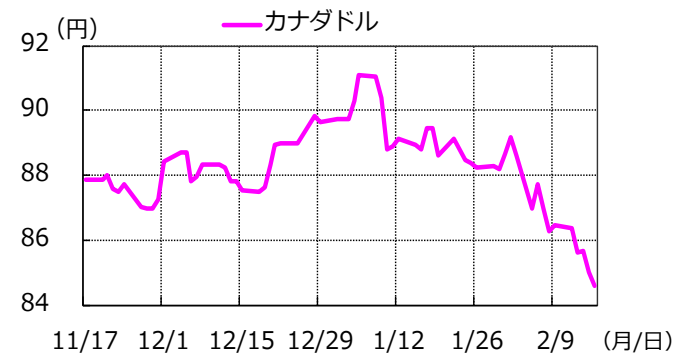
（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 国債利回りを表示（南アフリカ：5年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。
- ※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

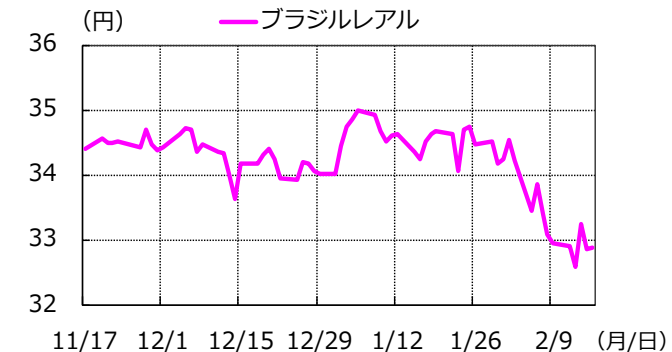
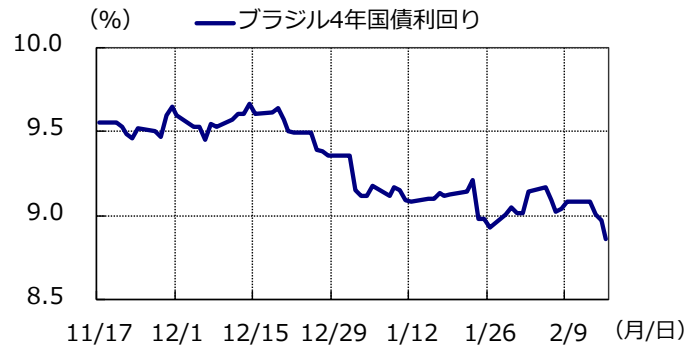
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/11/17～2018/2/16

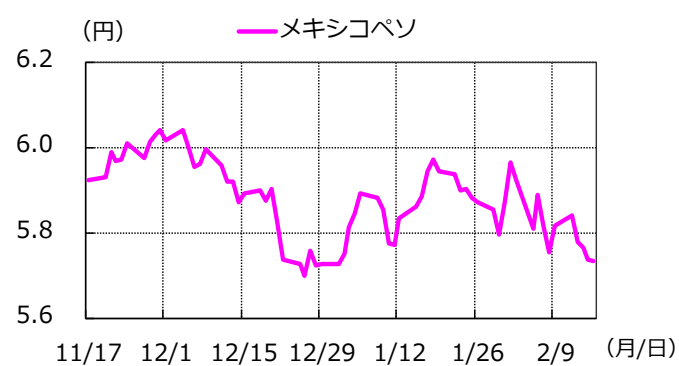
カナダ



ブラジル



メキシコ

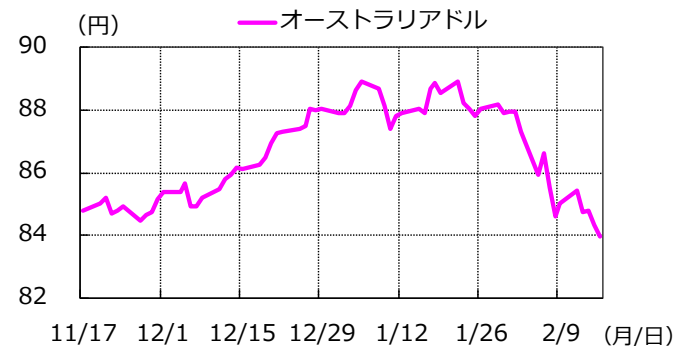


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

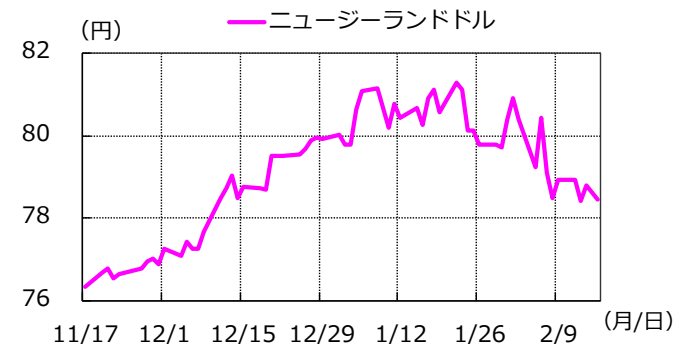
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/11/17～2018/2/16

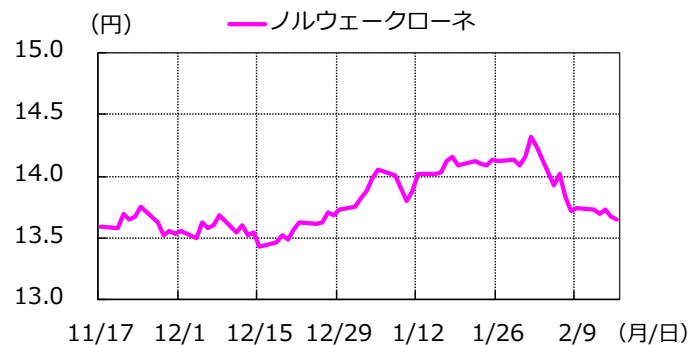
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

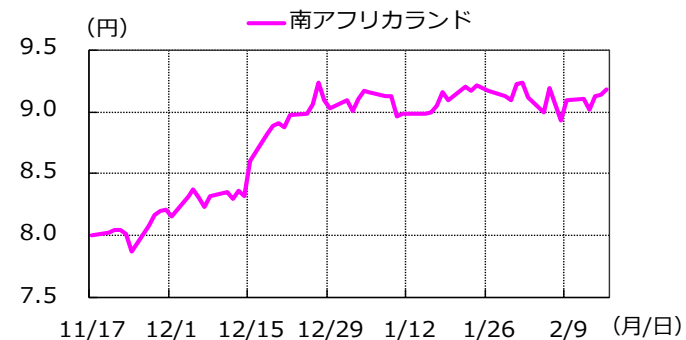


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

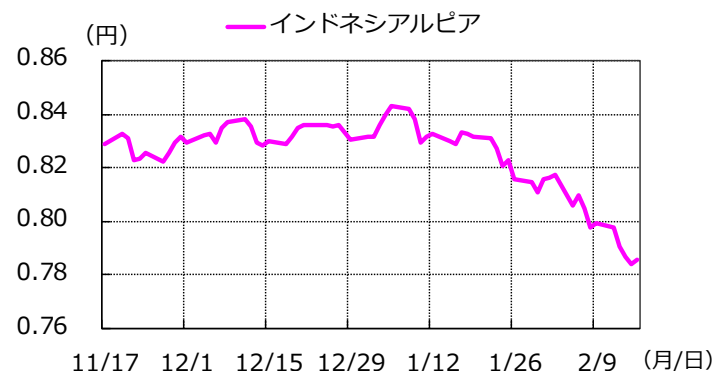
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

期間：2017/11/17～2018/2/16

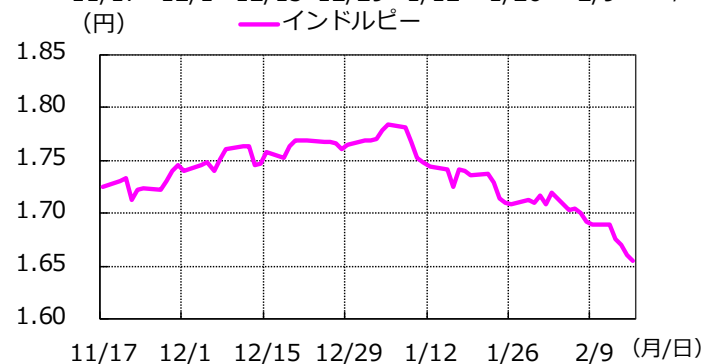
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。（出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成）

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。  
※巻末のご注意事項を必ずお読み下さい。

# 投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

## 【投資信託に係るリスクと費用】

### ● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

### ● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

#### ■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.78%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

#### ■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.6824%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

## 【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。